



ちゅうごくてすきちくしせいぞうぎじゅつ
中国手漉竹紙製造技術

陳剛／著 稲葉 政満／監修 白戸 満喜子／訳
科学出版社東京 2023.10
7,235p 26cm 585.6/ネ3X
2023.12.8 受入 定価 4,800 円＋税

目次

日本語版刊行にあたって
日本語版監修者のことば

序

第一章 概要

第二章 竹紙製造技術の現状調査

第三章 竹紙の伝統的製造技術の研究

第四章 伝統的な竹紙製造技術の科学的研究と保護

【附録一】 主要産地別 竹紙の種類・寸法・常用計量単位・用途

【附録二】 竹紙の伝統的製造法一覧表

【附録三】 井上陳政『清国製紙法』（一部）

【参考文献】

原著あとがき

訳者あとがき

📖 関連書籍

『竹紙を漉く』

水上 勉／著 文芸春秋 2001.8

🗨️ 図書館員のつぶやき

竹を発酵させるのに人の尿を使っていたこともあるらしい(*_*)

📖 内容紹介

漢代に製紙が発明された当初の主原料は、不要になった麻だった。その後、竹も用いられるようになるが、竹紙の起源は不明な点が多い。著者によると、北宋時代につくられた竹紙の現物が存在し、宋代には竹紙が大々的に普及したことは疑いがないという。中国では、先祖を供養するための墓参りの際に紙銭などを燃やす習慣があり、竹紙は祭祀用としても重要な意味を持っている。

清代から中華民国の時期には、竹紙製造技術が成熟して最も多様化する。しかし、清朝末期になると、機械漉き紙の輸入などにより、手漉き紙の市場は縮小し始め、生産量も徐々に減少していった。

著者は中国各地に赴き竹紙製造技術を調査、その実情を詳細に記録したのが本書である。既存する竹紙製造技術の多くが、すでに伝統的技術から大きく変化している部分もあるという。竹紙製造技術は地域により多種多彩で、千年にわたる生産経験と地域の環境条件とを組み合わせることで徐々に形成されてきた重要な無形文化遺産である。伝統的な竹紙製造技術を調査・研究することで、その技術の保護活動へとつなげようとする一冊。

はんちく

版築—伝統と革新の間 (前橋工科大学ブックレット 8)

石川 恒夫／著 三田村 輝章／著
上毛新聞社営業局出版編集部 2023.3
73p 21cm
K377/MA76/ヌ 76-8 2023.11.8 受入
定価 800 円＋税

目次

ご挨拶—ものづくりへの情熱 今村一之

まえがき—何をつくるのか 石川恒夫

1章 版築制作の11年—叡智を蓄える— (石川・三田村)

2章 版築壁を利用したパッシブデザイン (三田村)

3章 版築の町—ドイツ・ヴァイルブルクを訪ねて (石川)

4章 前橋公園にて—版築ベンチで公園を彩る (石川)

あとがき—何のためにつくるのか 石川恒夫

注釈・参考文献



📖 内容紹介

版築とは、棒で土を突き固めることを繰り返して壁を構築するという、伝統的な構法である。古くは法隆寺の築地壁にも使われているほか、世界中に見られる技術でもある。

前橋工科大学では、「建築設計ワークショップ」という科目で、2012年からこの版築製作の実習を行っている。前著(2017刊※)に続き、本書では2016～2022年の版築製作の作業内容と得られた知見がまとめられている。この実習は、2021年の日本建築学会教育賞を受賞した。

著者らは、土という建築材料は、ごみも出ず、再生可能で、版築は古くて新しい未来の構法として注目している。

🗨️ 図書館員のつぶやき 究極のエコ素材、土の底力！

〈前橋工科大学ブックレットのご紹介〉

「前橋工科大学ブックレット」は、前橋工科大学の教員の研究活動や教育活動を広く市民・県民の方をはじめ多くの方に理解していただくことを目的として、上毛新聞社事業局出版部ご協力のもと2017年から発行している書籍です。(前橋工科大学ホームページから)

【既刊】『人間の空間を創造する』前橋工科大学／編 2017.6

『命を技術する』前橋工科大学／編 2017.6

【※】『版築—今甦る、土の建築 実践的建築教育の試み』

石川 恒夫／著 遠野 未来／著 2017.9

『余暇の風景学を考える 上』小林 享／著 2018.3

『余暇の風景学を考える 下』小林 享／著 2018.6

『快適な住宅プロジェクト』関口 正男／著 2020.2

『令和の神興誕生物語』石川 恒夫／著 平柳 利英／著 2020.3



本紙は、県立図書館が新たに収録した資料をご紹介します。県立図書館は、小説や実用書などの一般的な資料よりも、専門的な資料や通常の出版物ルートに乗らない郷土資料など、特定の利用者層や限定的なニーズを満たすような資料を収集する役割を担っています。“ニツチ”＝“すき間”というタイトルにその意図を込めてみました。

【群馬県立図書館】 〒371-0017 前橋市日吉町一丁目9-1 電話：027-231-3008

